

## 第2学期終業式式辞

令和6年12月20日

149日、今日で、令和6年度の開校日が149日になったそうです。あつという間に過ぎた、と感じたか、ホント長かったと感じたか、皆さんはどう感じましたか。フランスの哲学者ジェネーはこんなことを言っているそうです。「人生のある時期に感じる時間の長さは、年齢の逆数に比例する」と。数学が苦手な私には難しい話ですが、私なりに言い換えると、1年365日の時間は変わらないはずなのに、自分の過ごしてきた時間、年齢を分母とし、1年を分子として考えると、5歳の時の1年は、人生の5分の1になるけど、16年17年18年生きた人生の1年は、16分の1、17分の1、18分の1だけ、人生の時間にプラスされるだけで、自分の生きた時間・人生との比率、割合が小さくなって短く、歳を取れば取るほど、時間は速く過ぎていくように感じる。ということだと思いました。

哲学者ジェネーの考え方が正しいのかは、皆さんがそれぞれ判断してください。しかし、私は、年齢を重ねる毎に、時間が過ぎるのが速くなっているように感じます。私にとっては、ジェネーの考えは真実のように思えます。

二学期を振り返ると、運動会、文化祭、総文祭、就職試験や大学や専門学校の入試、各種のコンテストなど、イベントが多い学期でした。

その時その時、各行事やイベントを、皆さんは、懸命に活動し、乗り越えてきたことだと思います。時間をどう感じるかはそれぞれですが、時間は、平等に与えられているものです。どう過ごしどのような時間を自分自身に積み上げていくかで、これからの皆さんの人生は大きく変わると思います。結局時間は、今この一瞬一瞬の積み重ねです。「今」を大切に経験を経験を積み上げていく、その先に、夢や希望が叶い、自己実現を果たしていく未来のあなた達があります。未来は平等に開かれていて、可能性という道路が広くどこまでも続いています。夢や成功は、どこか遠くにあるのではなく、自分の足元に落ちていると言う人もいます。そしてそれを叶える時は、過去や未来ではなく、いつも今現在です。

4月の図書館だよりに、吉田高校でも教師として勤めていた詩人の坂村真民の次のような詩が紹介されていました。

「大切なのは、かつてでもなく、これからでもない。一呼吸一呼吸の今である。」

時間が短いか長いかは過ぎてしまっただけのことです。可能性を閉ざすのが、自分自身にならないよう、この冬休み、皆さんの「今」を大事に生きてください。

三年生は、残り少ない高校生活を、それぞれの目標に向け、総仕上げの今となります。

一、二年生は、これまで以上の良い冬休みとなるよう、それぞれの今を大事に過ごしてください。努力した人が全て報われるとは限りませんが、夢を実現させた人は必ず努力していると聞きます。

三学期、元気な顔で会いましょう。良い新年を、いい冬休みを。以上で、私の式辞とします。